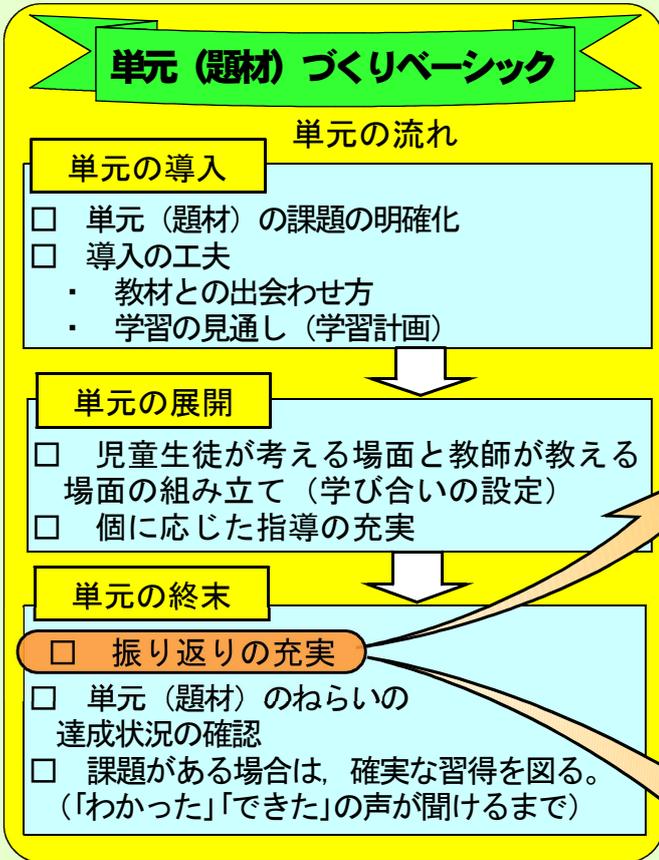


「わかった」「できた」の声が聞けるまで！

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

振り返りは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に有効です。



振り返りを含めた様々な学習活動は、「学習へのアプローチ」(児童生徒→学習へ)の深さに違いがあります。下の表は、その深さを表しています。

学習活動	深いアプローチ	浅いアプローチ	学習への深いアプローチと浅いアプローチの特徴
振り返る 離れた問題に適用する仮説を立てる 原理と関連付ける 身近な問題に適用する説明する 論じる ……(途中省略) …… 記述する 言い換える 文章を理解する 名前をあげる 記憶する	↑ ↓	↑ ↓	【深いアプローチ】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の知識や経験を考えを関連付けること ○ パターンや原理を探ること ○ 論理や議論を注意深く、批判的に検討すること ○ 学びながら成長していることを自覚的に理解すること ○ 学習内容に積極的に関心をもつこと 【浅いアプローチ】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 事実等を棒暗記し、手続きをただ実行すること ○ 課題等について価値や意味をほとんど求めないこと ○ 目的や戦略を反映させずに勉強すること

例えば、これらの学習活動は、やり方によって深くも浅くもなる。

引用 平成28年度12月21日 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(中教審第197号)補足資料」
 出典：京都大学 松下佳代編著『ディープ・アクティブラーニング』大学授業を深化させるために』

令和2年度 大隅地区「確かな学力の定着」のための3つの柱

【1 授業改善の推進】



【2 「学ぶ姿勢」の育成】

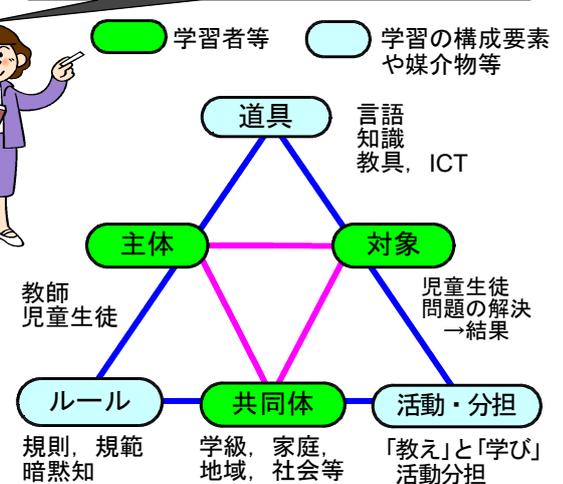


【3 学力向上に関するPDCAサイクルの確立】



さまざまなものを結びつけた振り返りをすることで、**更に** 深い学びにつながります。

下図は、振り返りにより様々なものが結びつくイメージです。



参考：鹿児島大学 原田義則准教授
 出典：京都大学 松下佳代編著『ディープ・ラーニング』大学授業を深化させるために』(2015)